

英語コーパス学会 Newsletter No. 80

July 15, 2016

■会長: 投野 由紀夫
■事務局: 〒157-8511 東京都世田谷区成城6-1-20 成城大学社会イノベーション学部 石井康毅研究室気付
■郵便振替口座: 00930-3-195373(英語コーパス学会)
■URL: <http://jaecs.com/> ■e-mail: jaecs.hq@gmail.com ■twitter: @JAECs2012

JAECs
Japan Association for English Corpus Studies

前会長退任挨拶

熊本学園大学 堀 正広

去る3月末日をもちまして任期満了で会長職を退任いたしました。2012年4月に前会長の赤野一郎先生から引き継ぎ、2期4年間、日本で最初のコーパス利用に関する研究団体である英語コーパス学会の会長という重責をどうにか全うすることができました。事務局長の田畑智司先生と会計係の小島ますみ先生、両先生の献身的な働きに支えられ、また理事の諸先生、そして会員の皆様のご支援とご協力によるものと心より感謝申し上げます。

任期中、悲しい出来事がありました。日本をこよなく愛し、日本人の英語コーパス研究者が最も影響を受けたランカスター大学名誉教授 Geoffrey Leech 先生が、2014年8月19日にお亡くなりになったことです。お亡くなりになる3ヶ月ほど前に、これまでの日本におけるコーパス研究への貢献に対して、感謝の印として Leech 先生にコーパス学会から感謝状を贈呈することができました。Leech 先生のご冥福を心からお祈り致します。

任期を終えても継続して行わなければならない仕事があります。コーパス学会設立20年を記念して始まった『英語コーパス研究シリーズ全7巻』の刊行です。昨年は、第2巻『コーパスと英語教育』と第4巻『コーパスと英文法・語法』が完成しました。今年は10月に開催される英語コーパス学会の大会にあわせて第5巻『コーパスと英語文体』が刊行されます。その後、第6巻『コーパスと英語史』、第7巻『コーパスと多様な関連領域』が刊行予定です。来年の英語コーパス学会の大会時には全7巻が揃うように赤野一郎先生はじめ、編者や執筆者のみなさんと作業を進めています。

新会長は東京外国語大学の投野由紀夫先生です。ご存じのように投野先生はコーパスに基づく英語教育、とくに学習者コーパス研究で世界的に著名な研究者です。また辞書編纂の分野でも国内外で活躍されています。学会設立20年を経て、さらなる飛躍を目指す当学会の今後を担うにふさわしい方です。また、執行部は副会長の井上永幸先

生、事務局長の石井康毅先生、補佐役として内田諭先生と大谷直輝先生、そして前執行部から継続して会計係は小島ますみ先生です。このように、盤石な事務局体制ですが、学会は会員の皆様のご協力がなければ円滑な運営はできません。旧執行部同様これまで以上に会員皆様からの新執行部へのご協力をお願いし、退任のご挨拶とさせていただきます。

会長就任挨拶

東京外国語大学 投野由紀夫

2016年度より会長に就任しました。微力ながら、学会の発展のために力を尽くしたいと思います。ご協力よろしくお願い致します。

私が英語コーパス学会に初めて参加したのは1990年代半ばだったと思います。当時は英語史、語法・文法、辞書学の研究発表が中心でした。ちょうど同じ頃、英国では ICAME のメンバーがコーパスの言語教育への応用を唱えて Teaching and Language Corpora (TALC) という国際会議を1994年から開催するようになりました。私は96年の会議に参加し、初めて Lancaster 大学を訪問し、そこで Geoffrey Leech, Tony McEnery, Paul Rayson, Michael Oakes ら Lancaster のコーパス言語学チームとの素晴らしい出会いがありました。彼らは専門知識の不十分な私にも大変親切にしてくれ、会議の発表の質疑応答もとてもポジティブな雰囲気満ちていました。みなでこの新しい分野「コーパス言語学」を発展させていこう、という前向きな気持ちが充ち満ちていたのです。

1998年から2000年まで私は Lancaster で博士課程を修めました。大学のフルタイムの職を辞して、家内と子供5人を抱えて、奨学金などもなく貯金をとりくずしながら3年間無給で勉強しました。それは家族にとっては大変苦しい期間だったと思いますが、私にはかけがえのない3年間でした。この3年間がその後の私の研究生活の土台を築きました。私は今でも家族にその経験をさせてもらったことを感謝しています。

帰国後、私はコーパスと英語教育の接点を常に

考えながら、勉強したことをできるかぎり研究、教育、社会貢献とさまざまな適用をおこなってきました。でもその根底にあるのは、Lancaster 大学で最初に体験した国際会議のポジティブな雰囲気と、地位や経験を問わずにコーパスに関して互いに学び合う謙虚な姿勢でした。幸い、英語コーパス学会は、その後英語教育分野で研究する方が大幅に増えました。

400 名以上の会員を有するに至った英語コーパス学会の会長として、私は皆さんとこの日本で唯一の英語コーパス言語学の学会をもっと盛り上げていきたいと願っています。そのためには、皆さんに互いの研究や興味、背景知識の違いを乗り越えて尊敬し学び合う気持ちと、学会に参加することを楽しいと思ひ、会の発展に貢献したいという積極的な気持ちを持っていただきたい。またそのような気持ちに互いがなれるように配慮し合う研究仲間であって欲しいと願っています。

コーパス言語学は、web corpus, multi-modal corpus などコーパス設計思想が従来と大幅に変化しつつあります。また data intensive な統計手法が加速的に進化し、text mining, big data, visualization といったキーワードが我々の分野と無縁ではなくなりました。この変化の激しい中で若手研究者の活躍が目立ってきたのは嬉しいことです。我々の学会でも健全な世代交代を進めていかなければなりません。

これから 2 年、できる限り皆さんに私が感じたと同じポジティブで建設的な学会の雰囲気を本学会で感じていただけるように、新事務局、理事会、会員一同で心を合わせて進もうではありませんか。皆さんのお力を是非とも私にお貸しください。よろしく願いいたします。

第 42 回大会のお知らせ

日時：2016 年 10 月 1 (土) ~2 日 (日)

場所：成城大学

(〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20)

詳細については 8 月下旬にお送りする大会資料ならびに当学会ウェブサイトをご覧ください。

■ 2016 年度「春のワークショップと講演会」開催報告

2016年4月23日(土)、大阪大学言語文化研究科(豊中キャンパス)にて以下のワークショップと講演会が開催されました。

<ワークショップ> (午後 2:00-3:30)

演題：CasualConc—これからのコーパス分析は Mac で!

講師：今尾康裕先生(大阪大学言語文化研究科)

内容：Mac OS X 用のコンコーダンサーである CasualConc を用いた幅広い研究で知られる今尾康裕先生に、CasualConc の基本的な機能の紹介や、実践的な使用法について紹介をしていただきました。

<講演会> (午後 4:00-5:00)

演題：学習英和辞典における意味記述—コーパス言語学の視点から

講師：赤野一郎先生(京都外国語大学名誉教授)

内容：英語コーパス学会の元会長で、辞書学の権威でもいらっしゃる赤野一郎先生に、ご自身のご経験を基に、日本の学習英和辞典へのコーパスの活用方法と、英和辞典のあるべき姿についてご講演頂きました。

■ 新入会員紹介 (7月1日現在 Sは学生会員)

関西外国語大学図書館学術情報センター

浅野元子 (大阪大学 S)

石井達也 (広島大学 S)

磯野達也 (成城大学)

Warren Tang (福山大学)

大橋浩 (九州大学)

岡田美穂子 (名古屋大学 S)

神崎高明 (関西学院大学)

久屋愛実 (University of Oxford/国立国語研究所 S)

近藤雪絵 (立命館大学)

高橋有加 (東京外国語大学 S)

張振宇 (北海道教育大学 S)

津村敏雄 (東洋学園大学)

西村知修 (西南学院大学 S)

Gregory Hadley (新潟大学)

ハドリー浩美 (新潟大学)

浜谷佐和子 (関西大学 S)

Ariane Macalinga Borlongan (東京外国語大学)

森山千鶴 (西南学院大学 S)

■ 理事会の決定事項について

4月23日(土)11時より大阪大学言語文化研究科(豊中キャンパス)において理事会が開催されました。審議された主な議案は以下の通りです。

◇人事について(理事会後にメールによる審議で承認された事項も含まれます。)

(1) 理事会

・理事(退任)：中尾佳行先生(福山大学)

- ・理事（新任）：石井康毅先生（成城大学）

(2) 事務局

- ・学会副会長（退任）
投野由紀夫先生（東京外国語大学）
- ・学会副会長（新任）
井上永幸先生（広島大学）
- ・事務局長（退任）
田畑智司先生（大阪大学）
- ・事務局長（新任）
石井康毅先生（成城大学）
- ・事務局補佐（新任）
内田諭先生（九州大学）
大谷直輝先生（東京外国語大学）

(3) 編集委員会

- ・編集委員長（退任）
瀬良晴子先生（兵庫県立大学）
- ・編集委員長（新任）
中尾佳行先生（福山大学）
- ・編集委員（退任）
園田勝英先生（北海道大学）
滝沢直宏先生（立命館大学）
田中省作先生（立命館大学）
- ・編集委員（新任）
家入葉子先生（京都大学）
水野和穂先生（広島修道大学）
水本篤先生（関西大学）

(4) 学会賞選考委員会

- ・選考委員（退任）
保坂道雄先生（日本大学）
- ・選考委員（新任）
西村秀夫先生（三重大学）

(5) 大会企画委員会

- ・委員長（退任）
西村秀夫先生（三重大学）
- ・委員長（新任）
金澤俊吾先生（高知県立大学）
- ・委員（退任）
石井康毅先生（成城大学）
杉森直樹先生（立命館大学）

(6) 東支部

- ・支部長（退任）
塚本聡先生（日本大学）
- ・支部長（新任）
大和田栄先生（東京成徳大学）

- ・委員（退任）
石井康毅先生（成城大学）

◇2015年度決算報告と2016年度予算案について

会計の小島ますみ先生（岐阜市立女子短期大学）より、加野まきみ先生（京都産業大学）により監査を受けた2015年度決算の報告と2016年度予算の提案があり、審議の結果、承認されました。詳細は2015年度決算報告書ならびに2016年度予算案をご覧ください。

◇後援依頼について

本年9月12日～14日に開催される第6回日本デジタルヒューマニティーズ学会（Japanese Association for Digital Humanities）年次国際会議（JADH 2016）への財政支援を伴わない後援依頼について了承されました。デジタル環境下の人文学を推進するJADH国際会議の射程には当学会の活動領域に属する研究・教育分野も含まれております。

■ 会誌『英語コーパス研究』第24号論文投稿募集について

『英語コーパス研究』第24号の原稿を次の要領で募集いたします。会員各位の積極的な投稿をお待ちしております。

【原稿の種類】

1. 英語コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた「研究論文」、「研究ノート」、「総説論文」、「書評論文」、「実践報告」
2. 「書評」、「コーパス紹介」、「ソフトウェア紹介」、「海外レポート」、「論文紹介」などの各種情報あるいは紹介原稿

【原稿提出締め切り】2016年11月30日（月）

電子メール添付にて提出してください。提出方法等についての詳細は学会 Web ページの投稿規定 http://jaecs.com/jnl/jnl_kitei.pdf を参照してください。この度投稿規定を一部改定しましたのでご注意ください。

【問い合わせ先・原稿提出先】

『英語コーパス研究』編集委員会
e-mail: jaecs.ed@gmail.com

【採用通知】2017年1月

【刊行予定】2017年5月下旬

『英語コーパス研究』編集委員会委員長

中尾佳行（福山大学）

■ 英語コーパス学会東支部 2015 年度活動報告

塚本聡（日本大学）

東支部として、下記のように、3 月に 3 名の講師による研究会を開催しました。本研究会開催は、細分化された各研究分野について直接関わらない他分野の方がその研究内容・手法などに触れる機会を設けると同時に、その研究手法などが他の研究分野でも活用される契機となることを目的としたものでした。前半では共通テーマ「性差に注目して」について各講師がそれぞれの分野での研究事例を紹介し、後半では、各講師の専門的テーマでの研究報告が行われました。専門分野での研究発表に基づき、他分野の方への研究への示唆となる内容が示され、それに対する質疑応答が行われました。

研究会には 25 名の方の参加がありました。会の終了後、懇親会が行われました。

<JAECS 東支部研究会>

日時：2016 年 3 月 19 日（土）15:00-17:40

場所：東京理科大学森戸記念館・第 2 フォーラム
（新宿区神楽坂）

実施内容

研究会：コーパスの言語学諸分野における活用(1)
社会言語学

概要

基礎編：性差に注目して

応用編：異なったレジスターをどう扱うか

司会・講師 高橋薫（東京理科大学）

「BNC を社会言語学の観点で分析すると」

講師 椎名美智（法政大学）

「歴史社会語用論とコーパス言語学」

講師 松田謙次郎（神戸松蔭女子学院大学）

「日本語社会言語学とコーパス言語学」

■ 今後の大会日程と開催校

- (1) 第 43 回大会は 2017 年 9 月 30 日と 10 月 1 日に関西学院大学にて開催する方向で現在調整を行っています。
- (2) 第 44 回大会は 2018 年 10 月初旬に東京理科大学にて開催する方向で現在調整を行っています。

2015 年度英語コーパス学会賞

該当者なし

2015 年度英語コーパス学会奨励賞

受賞者：宇佐美裕子氏（東海大学）

受賞対象：The Application of Corpus Linguistics to Language Testing—Improving multiple choice questions. (Lambert Academic Publishing, 2015)

■ 事務局から

この 4 月より新しく事務局長として石井康毅（成城大学）が就任いたしました（一期 2 年間）。また事務局補佐として内田諭（九州大学）と大谷直輝（東京外国語大学）が就任いたしました。もとより微力ではございますが、本学会のお役に立てるよう力を尽くす所存ですので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

事務局からは情報発信のツールとして、ホームページ、ニューズレター、JAECS メーリングリスト、Twitter (@JAECS2012) でイベントの案内などを随時行う予定です。

◇会費納入のお願い

2016 年度会費（一般 6,000 円、学生 3,000 円）を、会誌同封の払込取扱票を使ってお納めいただきますよう、ご協力をお願いいたします〔振替口座：00930-3-195373〕。払込取扱票を紛失された方は、郵便局に備え付けのものに必要事項をご記入の上お納めください。

過年度会費未納の方は、2016 年度分と併せてお納めください。過年度会費未納の場合、機関誌などの送付を一時中止させていただいております。

住所、所属などに変更や異動のある方は、学会ウェブサイトの「会員情報変更」からのお手続きをお願い申し上げます。

※会員の皆様には、日頃より会費の当該年度内納入にご協力をいただきまして、お礼申し上げます。会費を滞納されますと、退会時に滞納分をまとめてお支払いいただくといった事態にもなりかねません。会員の皆様におかれましては、円滑な学会運営のためにご協力いただけましたら幸いです。なお、退会を希望される場合は、当該年度内に学会ウェブサイトの「退会手続」からのお手続きをお願い申し上げます。

FORUM

■ ICAME 37 に参加して

能登原祥之 (同志社大学)

毎年5月にヨーロッパで行われていた ICAME (International Computer Archive of Modern and Medieval English) ですが、今年は香港 (於 香港中文大學) で行われ、様々な国籍の方々が参加する国際色豊かな学会となりました。学会は、2つの Pre-Conference Workshop, 5名の Plenary Speech を間に挟み、約80件の分野に分かれての自由研究発表、という形で構成されていました。発表会場は、研究分野別に細分化され、伝統的な英語史研究を始め、語彙・コロケーション研究、形態素・文法・構文研究、談話分析・話し言葉研究、さらに、世界諸英語、アジア英語、アカデミック英語、学習者英語、など、様々な英語の諸特徴に関する研究成果が報告され、活発に議論されていました。

この度の ICAME 37 の学会テーマが Corpus Linguistics across Cultures でしたので、The ICE Corpus (<http://ice-corpora.net/ice/>) や20か国の諸英語約19億語を基に構築された The GloWbE Corpus (<http://corpus.byu.edu/glowbe/>) を基礎データに、世界の諸英語 (World Englishes) や対照言語学・翻訳学 (contrastive/translation) 研究が盛んに発表されていたのが印象的でした。

また、言語研究に加え、聴衆の関心が高かったのが、研究手法・研究情報源・デモでした。公開されているコーパスデータの整備状況や研究手法の進化形を確認することができました。例えば、CLARINO Project ですが、Corpuscle (<http://clarino.uib.no/korpuskel/page>) の Corpus list を通して ICAME 所蔵の The Brown Family や The Helsinki Corpus, その他の言語情報にオンライン上でアクセスできるようになっています (認証登録要)。M. Davis 氏 (ブリガムヤング大) の発表では、(1) The COCA Corpus (<http://corpus.byu.edu/coca/>) の新しいインターフェイスの紹介。(2) 2010 年以降のウェブ上の新聞をデータとし、毎日約1万の新たな新聞記事から約400万語更新されるオンライン新聞コーパス The NOW (News on the Web) Corpus (<http://corpus.byu.edu/now/>) の紹介。(3) オンライン百科事典 Wikipedia の約440万以上の記事をデータとした約19億語のコーパス The Wikipedia Corpus (<http://corpus.byu.edu/wiki/>) の紹介。さらに、Sketch Engine と同様の Virtual Corpus (<http://corpus.byu.edu/wikipedia.asp>) 機能を使って独自に

コーパスを構築する例が紹介され、聴衆の関心を一手に集めていました。

Plenary Talk については、特に興味深かったものを3件ご紹介したいと思います。まず、K. Hyland 氏 (香港大) ですが、約 220 万語の論文コーパスを独自に構築し、アカデミックライティングにおけるインフォーマルな言語特徴 10 種 (e.g., 一人称代名詞) について過去 50 年の傾向を調べ報告されました。その結果、修辞表現に多少変化は見られたが、期待していたほどインフォーマルさが強く出ているとは言い難いと現時点での解釈を述べておられました。

また、E.W. Schneider 氏 (レーゲンスブルク大) は、The ICE Corpus と The GloWbE Corpus の2つの大規模世界諸英語コーパスを利用した言語と文化研究の3つのアプローチを提案されました。具体的には、(1) 文化的な事物に関する語彙研究、(2) 文化に関する指標的用語 (indicator terms) を用いた多次元分析研究、そして、(3) 構文に見られる文化的な色合いを用法基盤モデルに基づき検証する構文研究、でした。検証結果から、(1) と(2)のアプローチは、文化的差異を確認する研究としては有効だが、(3)については、分析が難しく、顕著な差異を確認するまでには至らなかったとしています。

最後に、D. Biber 氏 (北アリゾナ大) の Plenary Talk ですが、M. Davis 氏、J. Egbert 氏との共同研究を報告されました。初期の The GloWbE Corpus からランダムに蒐集した約5万の各国URL の英文に多次元分析用レジスタータグ (<https://sites.google.com/site/multidimensionaltagger/>) を付与し、5,800万語になる The CORE corpus (<http://corpus.byu.edu/core/>) を独自に構築。高頻度 tri-gram の語群に焦点を当て多次元分析を行った結果を発表されました。発表の中で、WaC専門家と78種類のレジスターの定義を見直し再度コード化した苦労話が吐露されました。変化し続ける現代英語の言語現象に真摯に対峙され、多次元分析法を丁寧に見直している Biber 氏の姿には正直感銘を覚えました。調査結果から、諸英語の中でも NZ 英語が様々な次元で目立った特徴を示していたが、その理由はまだ「謎」として発表を終えられました。

最後に、学会員の先生方の活躍ぶりをご紹介したいと思います。今尾康裕先生 (大阪大学) は Mac 版コーパス分析ソフト CasualConc の最新版の機能と活用法を披露されました。また、成田真澄先生 (東京国際大学) はアカデミックライティングにおける日本人英語学習者の人称代名詞の使用傾向に関する研究結果を発表されました。両先生とも最新の研究成果や知見を世界に発信され活躍されておられました。

2016年7月15日発行

編集・発行 英語コーパス学会
会長 投野 由紀夫
事務局 〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20
成城大学社会イノベーション学部
石井康毅研究室気付
e-mail: jaecs.hq@gmail.com
twitter: @JAECs2012
URL: <http://jaecs.com/>
